

# 小学4年1組 国語科学習指導案

指導者 恩 田 一 穂

他のグループからアドバイスしてもらったことを参考にしながら自分たちのプレゼンテーションを映像を見て振り返ることは、おうちの人により伝わるようにするためにはどうしたらよいかという視点で、伝える内容と伝え方についての工夫を考えることに有効であったか。

## 1 単 元 名 林間学校で心に残ったことをプレゼンテーションしよう

## 2 単元のねらい

林間学校で経験してきたことについて、自分の伝えたいことが相手により分かりやすく伝わるように、事例や理由を挙げるなど、内容や話し方の工夫をしながら話すことができる。

## 3 授業の構想

(1) 本学級では、昨年度から朝の時間に、スピーチを行っている。話すことが苦手な子どもも、他者のスピーチを参考にしながら自分のスピーチの質を上げようとしている。ただし、聞いている人にどうしても分かって欲しいという意識は十分に高いとは言えない。その意識が、話す内容や話し方から伺える。昨年度、読むことの学習で昔話の語りを行った際に、「自分の選んだお気に入りの昔話のおもしろさを隣の学級に伝えたい」という目的意識・相手意識を強く持ち、意欲的に学習に取り組んだ。自分の願いを達成するためにはどこを強調して語ったらよいのか昔話のおもしろいと感じるポイントを読み取ったり、場面の様子や登場人物の心情が伝わるようにするためにはどのような工夫があるのか考え実践したりした。このように、目的意識・相手意識が明確になった学習において、よりよい語り方を求めて主体的に学習に取り組んだ。また、図表や写真などから読み取ったことを基に表現する学習を行った際には、分かったことを羅列するのではなく、注目する点を決めて、それについて分かったことや考えたことを表現することができた。このような学習を積んで来ている子どもたちに、伝えたくてたまらない題材を設定し、その中から何を選び、どのような方法で伝えるのかという課題を設定することができれば、表現にこだわり、工夫して伝えようとする姿が期待できると考える。

(2) 以上のような実態と、教科構想を踏まえ、本単元では次の三つの姿を求めたい。

- ・ 目的を達成するために、伝える内容や伝え方について工夫する姿
- ・ 自分の表現について振り返り、その方法について吟味する姿
- ・ 全体での学びや、他者の表現のよさを自分の表現にいかそうとする姿

以上の3つの姿に近づけていくために、本単元では林間学校を題材として扱い、林間学校で心に残ったことを保護者に伝える学習活動を設定する。

林間学校は本校の宿泊研修の一つである。子どもたちにとっての位置づけが大きい行事であり、保護者も同じように感じている。すなわち、話し手・聞き手共に関心の高い題材であるため、話し手の目的意識・相手意識を強く持つ学習となり得る。子どもたちは、この行事を通して個としても集団としても成長したいと願っており、子どもたちの発表は単に経験したことの羅列ではなく、本人が感じたこと、考えたこと、振り返って改めて発見したこと等が挙がるであろう。そして何よりも、自分たちの経験や成長を知って欲しいという意味で、伝えたいという必然性も高くなると考える。また、その場に居合わせていない相手に伝えるという点で明確な相手意識も働くと考えられ、何を話すのか、どのように話す

のかといった工夫も必然的に生まれるのではないかと考えた。

(3) 以上のような題材のよさを踏まえ、以下の点について留意して本単元を展開する。

① 伝える相手の明確化と目的の明確化

本単元における聞き手は子どもたちの保護者である。ただ、「おうちの人に伝えよう」では、相手意識は明確ではない。おうちの人に伝えるとはどういうことかを考えるようにする。そこにある相手意識は、「実際に経験していない」、「おおまかな日程は知っているが具体的な細かいことは知らない」、「みんなが感じたこと・考えたことは伝えないと分からない」等が挙げられるだろう。厳密に言うと、1つ目は、実際に見ていない、聞いていない、等細かく分類できるが、こうした点まで考えることが相手意識であり、何をどのように伝えるのかを考える際の拠り所となり、モニタリングの共通の視点となる。また、単元を通して自らの表現を追究し続けることができるように、何のために伝える活動をするのか、そこにある子どもたちの願いを単元の導入の時点で十分に耕し、全体で確認する。

② 伝える内容・相手に応じた表現

本単元における発表会は、話し手である子どもたちと聞き手である保護者が共に情報を共有することができるように、プレゼンテーションという形式を採っている。4年生児童にとって、前述した相手意識を現実の発表に反映させることは、言語だけでは難しい面もある。そこで、より分かりやすく筋道を立てて伝えるための手立てとして、考えの根拠となる写真や資料を使って話すことを取り入れようと考えた。ただし、発表の形式以前に、何を伝えたいかが最も重要であるため、そこは第一に考え、そのために何ができるかを考えられるようにしたい。

③ 他者・自己によるモニタリング

本単元では、他者によるモニタリングと自己によるそれを取り入れようと考えた。他者によるものはこれまでの学習においてその有効性は明らかである。自己によるものは、他者からのアドバイスがより理解できると共に、自分の話し方について振り返る性格が強いと考える。聞き手の立場に立って自己の発表を振り返ることにより、工夫を考えるだけでなく、それを実践することを可能にしたい。

本時は、③に該当する学習である。事前に何をモニタリングするのか明確にしておきたい。グループによっては、特に注目してほしい点を事前に伝えることもあるだろう。自己のモニタリングについても同様である。モニタリングの際には、気づきがすぐにメモできて、後にも残るようにするため、付箋に書くようにする。発表後は聞き手が書いた内容を伝えながら渡し、話し手はそれをもとに発表を振り返るようにする。付箋は2色用意し、自分のグループの課題は内容と話し方のどちらに多い傾向があるのか視覚的につかめるようにする。全てのグループの相手意識・目的意識は同じであるので、授業の終末には、どのようなことが話題に上がったのかを全体で共有し、自分たちの発表にいかせるものを探せるようにしたい。

#### 4 展開計画（全11時間 本時8／11）

次	主な学習	時	具体的な学習活動
1	何を伝えたいのかみんなです話し合おう。	1・2	・林間学校で経験したことの中から、どんなことをおうちの人に伝えたいのか話し合うと共に、どのような伝え方ができるのか考えることで、発表会に向けた意欲を高める。 ・発表会の計画を立てる。
2	グループで、何をどのように伝えるのか考えよう。	3 4～6	・おうちの人により分かりやすく伝えるためのポイントを、全体で話し合い、明らかにする。 ・グループで何を伝えたいのか、グループで話し合い、決定する。 ・役割分担をし、発表について考え、準備をする。

		7 ⑧ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで練習する。</li> <li>・中間発表会を開き、グループ間でお互いの発表をモニタリングし、自分の発表を振り返る。</li> <li>・修正を加え練習をする。</li> </ul>
3	発表会を開こう。	10 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会を開く。</li> <li>・学習のふりかえりをする。</li> </ul>

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

プレゼンテーションについて、他者からのアドバイスをもらったり、自分たちの発表の画像をモニタリングしたりすることで、伝えたいことがより伝わるような工夫を具体的に考えることができる。

### (2) 展 開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 本時の中間発表会でどんなことに注目して欲しいか出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが成長したことを伝えたいので、本番だけでなく、準備のころと本番で変わったことについて話します。</li> <li>・大事なところは間をとって、ゆっくり話そうと思います。</li> <li>・聞いている人の目を見て話すようにしたいと思います。</li> </ul> 2. 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫していることについて、話の内容や話し方に分類して板書し、モニタリングの視点をもつ際に参考になるようにする。</li> <li>・工夫している点に加え、困っていることなども必要に応じて引き出し、モニタリングの一つの視点とする。</li> </ul>
おたがいに発表へのアドバイスをしたり、自分たちの発表を見たりして、おうちの人により分かりやすく伝える工夫を見つけよう。	
3. お互いの発表をモニタリングする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山を登るのが大変だったことを伝えるには、どんな道か分かるような写真がいいと思うよ。</li> <li>・たとえを使った方が、見ていないおうちの人にはよく伝わると思うよ。</li> <li>・心に残ったことはどんなことか分かったけれどその理由が知りたいな。</li> </ul> 4. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の伝えたいことと写真があまり合っていないことが分かったので、本番はちがう写真を選びたいです。</li> <li>・自分の気持ちを話したけれど、どうしてそんな気持ちになったのかもつけ加えて話したいと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何についてモニタリングするのか明確にするために、子どもたちに板書から、発表の内容、話し方に分けて考えられるようにする。</li> <li>・付箋は2色用意して、発表の内容に課題があるのか、話し方に課題があるのか、視覚的に分かるようにし、自己モニタリングの前に渡す。</li> <li>・付箋に書かれたことを中心に自己モニタリングするようにし、聞き手の立場に立ったモニタリングができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の視点（読む能力）</p> <p>話す内容または話し方についての改善点に気づき、次の発表に向けて具体的な工夫を考えている。</p> <p><b>支援</b></p> <p>実際に林間学校に行っていない人に伝えるためにという相手意識を再度確認し、考える視点を明確にする。</p> </div>

### (3) 本時で目指す子どもの姿

◎伝えたいことがおうちの人により伝わるようにするためにはどうしたらよいか、自分の発表を振り返り、その工夫を具体的に考えている姿